

『閑居友』 (二) : 岩瀬文庫本翻刻と諸本対校

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原田, 行造, 藤島, 秀隆 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47696

『閑居友』(二)

—岩瀬文庫本翻刻と諸本対校—

藤原田行造
藤島秀隆※

(※金沢工業大学助教)

十、覚弁法師涅槃經ときて高座にておはる事

ちかうの事にや。い賀の国に覚弁といふ僧ありけり。國中ノ物
みなこそりてたうとみあふきけり。かゝるに、このくに五時の
みのりをのへときて、人にゑんをむすはする事ありけり。そのこ
ろは春のなかは二月をなむきためて、十五日お結願にしける。あ
るときこの僧かたへの人にいふやう、我は十四日に法花経をとき
のふへきにて待れとも、いさゝかおもふやう侍り。十五日にかへ
てねはん経をとかんとおもふ也。かへ給てんやといふ。この人い
とやすき事也。なしかはこれほと(31)の小事におほしわつらひ給へき。
さら也といふ(32)。さて悦て返ぬ(33)。十五日にはゆあみ、かしらそり、
きよきものなときてすてにかうさ(34)にのほりて、のりとく事つねよ
りもたうとし。みなあはれみあへり。さて、この人いふやう、昔も
ろこしの竺道生のねはん経をとくとて、かうさにてのりとくときおは
りて、やかてしにたまひけん事、いみしくたうとく侍。あはれ、
たゝいまかくてしに侍らばやなといひもあえず(47)。さめくとなく。
やゝひさしうかほもあけねは、あやしと思ほとにやかてなん身ま
かりにけるとなん。この事をきしに、かきりなくあはれにたう
とくおほえき。高僧伝をみ侍しに、かの竺道生の所にて、おほく
のなみたをこほせり。廬山ノ精舎にて、法座(56)にのほりてのりとく
き給におはりなんとせしとき、たちまちにてもちたる塵尾(61)のか
うさよりおちけるにそ、ねはんにいりにけりとはしりそめ侍ける。

(校異) ①ちかうの↓ちかき比の(神)(2)い賀↓伊賀(宮・譚・神・類・版)
(3)といふ↓と云(譚・神)(4)ありけり↓有けり(宮・譚・神・類・版)
(5)國中ノ物↓國中の物(宮)(6)國中のもの(譚・神・類・版)
(7)かゝるに(神)(8)この↓此(譚・神・類・版)(9)かゝるに(神)(10)かゝるに(神)
(11)とて(神)(12)あんに(宮)(13)むすはする事あり↓結ひける事有(神)(14)その
ころは(宮)(15)なむきたる(宮)(16)十五日お(神)(17)かたへ(神)(18)かたへ(神)
(19)いふやう(宮)(20)かたへ(神)(21)いふやう(宮)(22)かたへ(神)(23)かたへ(神)
(24)かたへ(神)(25)かたへ(神)(26)かたへ(神)(27)かたへ(神)(28)かたへ(神)(29)かたへ(神)
(30)かたへ(神)(31)かたへ(神)(32)かたへ(神)(33)かたへ(神)(34)かたへ(神)(35)かたへ(神)
(36)かたへ(神)(37)かたへ(神)(38)かたへ(神)(39)かたへ(神)(40)かたへ(神)(41)かたへ(神)
(42)かたへ(神)(43)かたへ(神)(44)かたへ(神)(45)かたへ(神)(46)かたへ(神)(47)かたへ(神)
(48)かたへ(神)(49)かたへ(神)(50)かたへ(神)(51)かたへ(神)(52)かたへ(神)(53)かたへ(神)
(54)かたへ(神)(55)かたへ(神)(56)かたへ(神)(57)かたへ(神)(58)かたへ(神)(59)かたへ(神)
(60)かたへ(神)(61)かたへ(神)(62)かたへ(神)(63)かたへ(神)(64)かたへ(神)(65)かたへ(神)
(66)かたへ(神)(67)かたへ(神)(68)かたへ(神)(69)かたへ(神)(70)かたへ(神)(71)かたへ(神)
(72)かたへ(神)(73)かたへ(神)(74)かたへ(神)(75)かたへ(神)(76)かたへ(神)(77)かたへ(神)
(78)かたへ(神)(79)かたへ(神)(80)かたへ(神)(81)かたへ(神)(82)かたへ(神)(83)かたへ(神)
(84)かたへ(神)(85)かたへ(神)(86)かたへ(神)(87)かたへ(神)(88)かたへ(神)(89)かたへ(神)
(90)かたへ(神)(91)かたへ(神)(92)かたへ(神)(93)かたへ(神)(94)かたへ(神)(95)かたへ(神)
(96)かたへ(神)(97)かたへ(神)(98)かたへ(神)(99)かたへ(神)(100)かたへ(神)

すへてこの経は、いつれの経よりもなつかしきものから(1)わひしくかなしく侍(2)まつはしめに(3)かくのこたくわれき(4)き。一時(5)仏狗戸那城力士生池阿利羅跋提河のほとり、沙羅雙樹のあひたにまし(6)き、といふよりなになくなみたらうかひて、心ほそくあさきなし(7)、心もみなうきたちてなにあやめおほえず。あやしむま(8)、とりなどのたくひもみなまいるのそみける(9)に、いかなるつみのむくひにて、そのときいつれの所にありてまいてまいりあはさりけん、とさらに身もうらめしくかきくらしてそおほゆる。しかあるに、この覚弁の君の経をときて、その座にてをはりおとりけん、いたうあはれに侍(10)かのもろこしの道希法師の天竺にむかひて、俱尸那城般涅槃經寺にすみにわたり侍けるを、のちに燈法師のたつねゆきてみければ、身まかりにけるとおほしくて、漢字ノ経はかりのこりて侍けるは、ことにいとをしくたうとくきこゆるそか(11)し。この事、遊心集にかたはかりのせ侍しにや。

〔校異〕(1)この↓此(譚・神・類・版)(2)なつかしきものから↓なつかしく侍ものから(譚・神・類・版)(3)わひしく(神)(4)侍り侍り(神・類・版)(5)まはしめに↓先はしめに(譚・神・類・版)(6)きき↓きき(宮)きき(譚)聞(神)起(類)きき(版)(7)狗戸那城↓物戸城(宮)(8)生池↓生地(譚・神・類・版)(9)阿利羅↓阿夷羅(神・類・版)(10)あひた↓間(神)(11)いふ云(神)(12)なに↓何(神)(13)なみた↓みなみた(譚)涙(神)(14)あさきなし↓あちきなし(諸本)(15)みな↓皆(神)(16)むま↓むし(為)宮・譚・類・版)虫(神)(17)とり↓鳥(譚・神・類・版)(18)たくひ↓類ひ(神)(19)みな↓皆(神)(20)のそみけるに↓望みにける(神)(21)つみのむくひ↓罪の報ひ(神)(22)にて↓更に(神)(23)とき時(神)(24)ありて↓有て(神)(25)さらに↓更に(神)(26)この↓此(神)(27)君の↓君ノ(為)(28)ときと(類)(29)その座↓其坐(神)その坐(類・版)(30)をはりお↓おほはる(宮)をはり(譚・類・版)終りを(神)(31)とりけん↓取けん(神)(32)いたうあはれに↓いとう哀に(神)(33)侍り侍り(神・類)侍り(版)(34)かの↓彼(神)(35)法師の↓法師ノ(為)36 涅槃經寺↓涅槃寺(諸本)(37)すみにわたりすみわたり(為)宮・譚・神・類・版)(38)のちに↓後に(神)(39)たつねゆきてみければ↓尋ね行て見ければ(神)(40)身まかりに↓身まかり(神)(41)漢字ノ経↓漢字の経(宮・譚・神・類・版)(42)はかり計(神)(43)のこりて↓残りて(神)(44)侍ける↓侍りける(神)(45)ことに↓殊に(神)(46)いとをしく↓いとおしく(譚・神・類・版)(47)きこゆる↓聞ゆる(神)

十一、はりまの国の僧の心お、こす事

中ころ(1)はりまの国におちたる僧ゆきとまりておるありける。するわさ(2)もなけれは、あさゆふ(3)もなけかしくて、田を(4)つくりてなむ身(5)をすくしける。秋かり冬おさむるわさもおもふほともえなかりけるなめり。所のおさ(6)なりけるもの、なすへきものにみしむありとて、とらゑ(7)てるうにこめたりけり。さすかにほとある事なれは、ついに(8)はいてにけるなるへし(9)、さて、返てめこにいふやう(10)、いまは我にいとまくれよ。ゆるきなく思ひかためたるなめりとて、ある山寺(11)にのほり(12)ことわさなく一すちに念仏をそ申ける。人々みなあはれみて、よう(13)の事はのたまはせかけよ、と我もといふ(14)。しはしはさるほどのこれうを日に二たひくひけるか、後には一日に一合のこれうを一たひなくひける。さて三年といふに、おのかいほりのまへにふたをかきてたりたり。なにわさをうれへたるふたそとみれば、ひさしくよにありてもそのようなく侍れば、心と命をすてむ(15)と思ひ侍也(16)。このうへの山にみきたるいはやの侍に、まかりなんこもりぬる。もし、我を我とおほさは、ものさはかしくたつねとふらひたまふ事なかれとそかきたる。人みなあはれみてたつねとふ事なし(17)。さて、おのつから日ころ(18)にもなりにければ、心ある人々せうくたつねありきけるに、西むき(19)にありけるいはやにいきたるやうにて、手をあはせ西にむかひてしにたりけり。時の人いみしくあはれかりけり。その名を(20)は、発心房とそいひける。いとあはれおける事かな(21)。

〔校異〕(1)中ころ↓中比(神)(2)はりま↓播磨(神)(3)ゆき↓住(神)(4)おる↓をる(譚)(5)ありける↓有けり(宮・神)ありけり(為)類・版(6)あさゆふ↓朝夕(神)(7)田を↓田お(為)(8)つくりてなむ↓つくりてなん(為)宮)作りてなん(神)(9)身を↓身お(為)⑩おさなりける↓おさなりける(譚・神・類・版)(11)みしむ↓未進(神)版には未進と傍書(12)とらゑて↓とらへて(譚・神・類・版)(13)ろうに↓籠に(神)(14)ほと↓欠文(宮)(15)いには↓つゝには(譚・類・版)終には(神)(16)いにて↓出に(譚)(17)なるへし↓成へし(神・類・版)(18)さて↓扱(神)(19)返て↓帰て(譚・類・版)かへりて(神)(20)めこにいふやう↓めこに云様(神)(21)我↓われ(譚・類・版)(22)思ひ↓おもひ(宮・譚・神・類・版)(23)なめ

りなめり(為)な(宮)(24)ある↓有(神)(25)のほりぬ↓のほり
 て(宮)(26)念仏をそ↓念仏おそ(為)(27)あはれみて↓哀みて(神)
 (28)事はのたまはせ↓事の給はせ(神)(29)いふ↓云(神)(30)さし
 ↓さて(為)宮・譚・神・類・版(31)これう↓この(譚)かれう
 (神・類・版)(32)くひけるか↓食けるか(神)(33)これう↓かれう
 (神・類・版)(34)一たひなんくひける↓一たひ食ける(神)(35)さ
 ↓扱(神)(36)いふに↓云に(神)(37)おのかわるか(譚)(39)
 類(38)いほりのまへにふたをかきて↓庵の前に札を書て(神)(39)
 な↓何(神)(40)ひさしく↓久しく(譚)(41)よにありても↓世に
 有ても(神)(42)すて↓む捨てむ(譚)捨てん(神)(43)思ひ侍也
 ↓思ひ侍也(為)思ひ給也(宮)思ひ給侍也(譚)思ひ給侍也(神・
 類・版)(44)この↓此(神)(45)みきたるいはやの侍に↓見置たる
 岩屋の侍に(神)(46)まかり龍(神)(47)こもり龍り(神)(48)
 もの↓物(神)(49)たつね↓尋ね(神)(50)とふらひたまふ事↓とふ
 らふ事(神・なお)神(は)ラと給(と)傍書(51)かき↓書(神)
 (52)みな↓皆(神)(53)たつね↓尋ね(神)(54)事なし↓事もなし
 (宮・譚・神・類・版)「為」では底本と同様「も」を傍記(55)おの
 つから↓をのつから(宮・譚・神・類・版)(56)日ころ↓日比(神)
 (57)なり↓成に(譚・神)(58)ある↓有(神)(59)ありき↓有(神)
 (60)西むきにありけるいはや↓西にむかひてそ有ける岩屋(神)(61)西
 にむかひてしにたりけり↓終りける(神)(62)その↓其(宮)(63)い
 ひ↓云(神)(64)あはれ也↓哀也(譚)哀なり(神)(65)事かな↓事
 哉(譚)ことかな(神)こと哉(類・版)

けに、いたつらにあけられて、つゝ病にとりこめられなんの
 ちには、身もよはく心もおほれて思ひのことくもなくてをはり
 をとらむ事、ほいなくそ侍へき。わか心のたかはぬ時、仏のちか
 ひをあふきて、命をすて、む事かしこかるへし。たれをあはれまん
 とちかひたまへる仏なればか、さはかりおしするいのちをたて
 まつらん人おみすくし給へき。手足のゆひをたきて仏に供養する
 をは、法花経にもうゑなき功德とほめたり。梵網経等にもあまた
 すゝめたり。いはんやこのいのちをみな仏にたてまつりて、この
 功德をさゝけてうきよをいつるたねとせんとねかはんは、ゆゝし
 き心さしなるへし。また求道の寒きたり、このみつきえて、山をい
 て、さとにむかふに、山にすむ大地のいまより後、経のこゑをき
 かさらむ事かなしみて、眼にちのなみたをなかしめてたかき木に
 のほりて、はるかにみをくるに、やうくとおくなりつゝつひに

みえずなりぬれば、つみのほとをかなしみてさまゝの善心を
 こして、木のうへより身をなけたりけるか、都率天にむまれて昔
 のかはねを供養すなと経には侍そかし。もろこしの伝には、釈
 惠猛、高岸より身をなけてしぬるに、いまたなかはのほとにて紫雲
 身をまつふと侍。また、明安といふあま、江のほとりに身をなく
 るに、金色の光ありて水のなかにいるとも侍めるは、いみしくた
 うとくこそ侍れ。しかはあれと、かやうの事むかしよりいまに
 たるまで、とかくさまゝに一かたならすいふ人もあるへし。せ
 んはた、我心にはからひて、すゝみもしりそきもすへきにこそ。
 善道和尚あまねくすゝめ、義浄三蔵は、ひろくいましめたまへり。
 これみなぎをはかりて、のたまふなるへし。よくくもおもふへし。

〔校異〕
 けに(為)宮(3)のち↓後(譚・神・類・版)(4)をはりて↓を
 りお(為)おほりて(宮)終りを(神)(5)とらむ事ほいなくそ↓取
 る事ほいなくそ(神)(6)わか心(神)(7)時↓とき(為)宮
 (8)すて↓むすてん(神)(9)たれをあはれまん↓とたれをあはれ
 まむと(譚)誰を哀まん(神)(10)ちかひたまへる↓誓ひ給へる(神)
 (11)おしするいのちを↓をしうする(譚)ゆひをたきて
 ↓指を焼て(神)(14)をは↓を(譚・神・類・版)(13)ゆひをたきて
 なき(譚)上なき(神)うへなき(類・版)(16)ほめたり↓讚たり(神)
 (17)たり、いはんやこのいのちをみな仏にたてまつり↓欠文(神)(18)
 この↓此(神)(19)うきよをいつる↓うき世をいつる(譚)憂世を出
 る(神)(20)せん↓せむ(類・版)(21)ねかはんは↓ねかかはむは(為)宮
 (22)また求道の寒きたり↓又求道の人寒来り(神)また求道の人
 寒きたり(類・版)(23)このみつきえて↓このみつきて(為)このみ
 つきて(宮・譚・神・類・版)(24)い、さとに↓出て里に(神)(25)
 こゑ↓声(神)(26)さらむ↓きらん(神)(27)かなしみて↓かなしひて
 た(譚)(28)ちのなみたを↓ちのなみたお(為)血の涙を(神)(29)
 たかき↓高き(神)(30)みをくるに↓見送りけるに(神)(31)とおく
 なりつゝ↓とをくりつゝ(宮)とをくりつゝ(譚)版)とをくりなり
 つゝ(類)遠く成ければ(神)(32)つひに↓つひに(宮・譚・類・
 版)終に(神)(33)つみ↓罪(神)(34)ほとをかなしみて↓善心をかな
 しひて(譚)ほとかなしみて(神)(35)善心をかなしひて↓善心をおこ
 けたりける(類)(38)都率天↓都卒天(神)(37)なけたりけるか↓な
 ↓生れ(神)(40)昔↓むかし(神)(41)釈↓釈の(宮・譚・神・類・
 版)(42)高岸↓高き岸(神)(43)身を↓身お(為)(44)しぬるに↓死
 ぬ(神)(45)にて↓に(神)(46)身を↓を(宮)(47)まつふ↓まつ(類)

十二、あふみのいしたうの僧の世をのかる、事

中ころ、⁽¹⁾近江国石堂といふ所に僧ありけり⁽²⁾としなかはに⁽³⁾あま
りて、世をいとふ心なんふがく侍ける。さて、日にそくては⁽⁴⁾人
かたをならふる事なとあきたく侍ければ、寺のましらひおはなれ
んと思ひて、いとまをこひけれと人々をしみてゆるさす。さて、
この人いみしく思ひなきて、日ころをふるほとに、そこちかく⁽⁵⁾
ところのをさなる男の身まかれるありけり。そのあとにつねにゆ
きて、あるときはえんのうへに夜をあかし、あるときはひるしの
ひにきてたちかへる事もありけり⁽⁶⁾かよりければこのあるしのめ
は、日ころも心おこしたる人とさきに、あはせて心の色をもまさ
んとするよな。あはれなるへき心の中のなげかかと思ひお
きて、たひかさなりければ、人々あやしのわさやなといひけり。
ある人はつみのうるることなきこゑたまひそ。我におきてはうけひ
かす。かゝる事きかしなともてはなるものもあり。かくて月こ
ろをよくるほとに、けにたゞ事ともおほえすありければ、あまね
くこのすちかちにいひなりにけり。さて、このてらにはさやうの
きこゑある人はなしとて、房きりさま／＼にはちかましき事あり
て、おひいたしつ。この人としころありつきて、はなれもよく侍
れと、今は更にかひなしとていてぬ。さて、はるかなる所にあや
しのいほりむすひて、たゞひとりおりけり。さて、このめつたゑ
きゝてわひなけく事がきりなげれとも、いまたこまやかなるたい
めんもせねは、なげくにもたよりなし。また、人つてにきこえさす
へき事にもあらねは、さてのみ日をよくる。さて、その後はこの

(48)とも共(譚・神)(49)また又(神)(50)いふ云(神)(51)
あま下尼(譚・神・類・版)(52)ほとり辺り(神)(53)ありて有
て(神)(54)なかに中(神)(55)こそ社(神)(56)かやう下
様(神)(57)むかし昔(神)(58)いまに今(宮)(59)いたるま
て至るまで(神)(60)いふ人云人(神)(61)あるへし有へし(神)
(62)こそ社(神)(63)善道善導(譚・神・類・版)(64)和尚(神)
尚は(神・類・版)(65)たまへり給へり(宮・神)(66)これ下(神)
(67)きを機を(神)(68)のたまふ下(給)(神)(69)おもふ思ふ(神)

人ふつとこの家によりくる事なし。夜ひるをわかす念仏を申。
ねには道場にて、にしにむかひて定印をむすひて観念をしけり。
〔校異〕(1)中ころ中比(神)②石堂石塔(神・類・版)(3)いふ云(譚・
神)(4)ありけり有けり(神)(5)とし年(神)(6)さて下(神)
(7)日にそくては日にそえては(為)日にそへては(宮・譚・類・
版)日に添えては(神)(8)あきたくあきた(譚)あき(神)(9)
侍ければ侍りければ(神)(10)ましらひおはしは(神)(11)おほ
(宮・譚・神・類・版)(12)をしましおし(神)「譚」では「お
は」と傍書(13)この人此人(譚・神・類・版)(14)思ひなきて
下おもひ嘆きて(神)(15)日ころ日比(神)(16)そこちかくそこ
ちなる(為)宮・譚(17)ありけり有けり(神)(18)をさなる下
(21)あと下跡(譚・神)(22)つねにゆきて下常に行て(神)(23)とき
下時(神)(24)えんえむ(類・版)(25)う上(神)(26)あると
き下はひるしのひにきてたちかへる事下ある時は昼忍ひて立かへりけ
る事(神)(27)もありけり有けり(譚・類・版)侍(神)(28)こ
の下此(神)(29)あるしのめあるしの女(為)宮・神(30)日ころ
下日比(神)(31)きくに下聞に(神)(32)あはれ下哀(神)(33)心
中のなげかな下心の情かな(神)(34)おり下をり(譚)(35)
さて下扱(神)(36)たひ度(神)(37)ある人下事(神)(38)つみのうる
事(為)宮(39)なきこゑ下なきこゑ(類・版)な聞(神)(40)た
まひそ下給そ(神)(41)おきて下をきて(譚・神・類・版)(42)もの
下物(為)宮(43)かく下かく(神)(44)ころ下比(神)(45)をよ
くる(為)宮(46)ほと下程(神)(47)とも下共
(神)(48)この下此(神・類・版)(49)すちかち下すち(譚)(50)
さて下扱(神)(51)てら下寺(譚・神・類・版)(52)さやう下さ様(神)(53)
きこゑ下きこゑ(宮・譚・類・版)聞え(神)(54)ある下有(神)(55)
房きり下房きたり(譚)房に來り(神)房にきたり(類・版)(56)あり
下有(神)(57)この下此(神)(58)もう下まう(諸本)(59)今
は更に下いまはさらに(為)宮(いまは更に(神)(60)さて下扱(神)
(61)いほり下庵(神)(62)ひとり下独り(神)(63)お下「譚」では「を
は」と傍記(64)さて下扱(神)(65)この下此(神)(66)め下女(為)
(宮)(67)つたあつた(宮・譚・類・版)伝(神)(68)き下聞
て(神)(69)わひなけく下佗嘆く(神)(70)事下こと(類・版)(71)
かきり下嘆く(神)(72)また下又(譚・神・類・版)(73)こと下き
こゑ(為)宮(聞え(神)(74)事下こと(類・版)(75)きこゑ下き
日を下くる日をおくる(宮)日を送る(神)日を送る(類・版)(77)
(78)この下此(譚・神・類・版)夜下よる(神)(79)家下い(為)宮(80)事下こ
と(神・類・版)(81)夜下よる(神)(82)わかす下分す(神)(83)念
仏を申下念仏申(神)(84)つね下常(神)観念をしけり下観念をし
けり(譚)

くいものには人のなげかをかくるときは、それをなん日をよく

るはかり事にしける。また、をのつからたへまなとのあるときは、
 さとにいて、こふ事もありけり。かくてあまたのとしをへぬ。さ
 て、あるときこの女の家にて、けさんすへき事ありといひけり。
 あやしくなに事ならんとて、いそきてあひたれはいかにもよをの
 かるゝ事を思ひあつかひて侍しに、その御とくにとしころのほ
 いをなんとけて侍。いま、極楽にまいらんする事のちかく侍れは、
 その悦申さむとてなんまうてきたるといひていてぬ。さて、七月
 七日草のとさし、つかにして、ひそかにいきたへにけり。其時、
 あやしき雲空にみえければ、人々おとろきてたつぬるに、この人
 のかくれぬる事をしりぬ。さて、七日かあひたあまねく人にえん
 をなんむすはせける。いみしくありかく侍ける心のうちなるへ
 し。人のならひにはいかになりはつるまでも、程にふれつゝほね
 をはうつむとも名をはうつましとおもひためるに、いまこの人の
 さま、いかてか仏も御覽しとかめす侍へき。かやうにふつに身を
 すて侍人には、をはりるとき、かならずめたゝしきほと瑞相の
 侍なめり。なをくあはれに侍り。

〔校異〕(1)く、いものくひもの(譚・類・版)食物(神)(2)にはなとは
 (宮・譚・神・類・版)(3)なさけ↓情(神)(4)とき↓時(神)(5)
 日を送る(神)日を送る(類)日を送る(類)版(6)事にしける↓こ
 とにかしける(譚)(7)また↓又(神)(8)たへ↓また(宮)絶間(神)
 たえま(類)版(9)また↓にいて、こふ事↓里に出て乞事(神)(10)
 あり↓有(宮)(11)あまた↓数多(神)(12)さて↓扱(神)(13)ある
 とき↓有時(神)(14)家↓いゑ(為)宮(15)きて↓来て(神)(16)け
 さん↓はさん(譚)けんさん(神)(17)あり↓有(神)(18)よ↓世を(神)
 (19)その御とく↓此恩徳(神)(20)はい↓本(神)(21)その↓其(宮)
 (22)申さむとてなん↓申さんとてなん(譚・神・類・版)申さんとて
 (宮)(23)さて↓扱(神)(24)草のと↓草の戸(神)(25)さし↓つか
 に↓さしつかに(宮・譚・類・版)(26)たへ↓たえ(神・類・版)た
 ん(譚)(27)其時↓その時(譚・神・類・版)(28)空↓そら(為)(29)
 みえ↓み(為)宮(30)人々↓人(類)(31)たつぬる↓尋(神)
 (32)この↓此(神)(33)さて↓扱(神)(34)あひた↓間(神)(35)え
 ん↓縁(神)(36)を↓お(為)あり↓有(神)(38)なり↓成(神)
 (39)までも↓とも(譚・神・類・版)(40)程に↓ほど(神)(41)ほねを
 ↓ほねを(為)骨を(神)(42)この人↓この人に(譚)(43)かやう
 ↓か様(神)(44)身をすて侍人には↓身を捨侍人には(神)身をすて
 侍人には(類)(45)をはりるとき↓終りの時(神)(46)めたゝしき↓め
 たしき(譚・神・類・版)(47)なをく↓猶々(宮)

十三、かう野のひしりの山からによりて心を、こす事

中比、高野にみなみつくしといふ往生人ありけり。つくしのも
 のふたりかうやにすみて、此南にすみかをかまゑて侍ければ、
 時の人、南つくし、此つくしといひけるなるへし。この南つくし
 は、日に一合のこれうをくひて、さらにそのほかのものゝくはす
 ありければ、やせおとろへてそ侍ける。あるときさるへき人々あ
 つまりて、なしかはかくはかり身おしましめ給へき。仏はみのり
 をならひおこなふをこそ、ほいとはおほせられたためれ。たゝ物な
 とおほからぬほとにくひ、つとめをもよくしておはせかしといひ
 ければ、聖のいふやふ昔の心のおこり侍しころ、このみてちや
 うもんを侍しに、たうときひしりのよりときたまひしをきし
 かは、昔かしこき人ありき。いまたいゑにありけるとき、いみし
 くこもりおあひしてかひけるか、一にやまから二れたりける
 に、一のやまからはものもくはてつねにはこのはらにつきて、こ
 のめよりいてんとのみして、やせほそりて水をたにおほくはのま
 て、いてむとするいとなみのほかさらにことわさなし。いま一の
 山からものいみしくひて、いさみほこれり。身もこゑふとりて
 そありける。さるほとに、このやせたるやまからいたく身もほそ
 りて、いかゝしたりけん、このめよりぬけてゝとひてさりぬ。
 これをみてそのあるしのおとこ、されはうきよをいてんととな
 まむ人もさるへきにこそ侍めれ。つねにうちしめりてたかきゑわ
 らひもせず、心おもひに物なともくはてこそあるへかめれとさ
 りて、やかてかしらおろして、いみしくおこなひて侍と説たまひし
 をきししか、いみしく身にしみて、我もし出家の心さしをとけた
 らは、さらむよと思ひそめしものち、いまはやあまたのとしをく
 り侍ぬ。

〔校異〕(1)いふ↓云(神)(2)あり↓有(神)(3)ものゝ↓者の(神)(4)
 かうや↓高野(神)(5)すみて↓すみ(宮)⑥此南↓北南(為)此西
 (譚・神・類・版)⑦かまゑて↓かまへて(宮)かそへて(譚)なら

へて(神・類・版)(8)此つくし北つくし(為・譚・神・類・版)
 (9)いひ云(神)(10)この人(譚・類・版)此人(神)(11)
 これうかれう(譚・神・類・版)(12)さらにそのほか更に其外
 (神)(13)ものも(諸本)(14)あり有(15)やせ瘦(神)
 (16)おとろへておとろえて(為・宮・神)(17)あるとき有(神)
 (18)なしかはしまし(類)(19)身お身(宮・譚・神・類・版)
 (20)おはらぬ(譚)(21)おこなふ(類)(22)ほいほ(神)
 (23)おはらぬ(類)(24)おはせ(神)おかせ(宮)
 (25)いふやふ云様(神)いふやう(宮・譚)(26)侍り(譚・類・
 版)(27)ころ比(神)(28)このみて好み(神)(29)ちやうもん
 ↓聴聞(神)(30)をとお(神)(31)のより(神)(32)たまひ給ひ(宮・神)
 ↓聞(神)(33)きき(神)(34)いふに
 ありけるとき家に有ける時(神)(35)こもりこり(為・宮・
 譚・類・版)小鳥(神)(36)おを(宮・譚・神・類・版)(37)あひ
 ↓あい(譚・類・版)愛(神)(38)一籠(譚・神・類・版)(39)
 やま山(譚)(40)二ふたり(神)「版」では「ふたつ」と傍記
 (41)いれたりけるに「入たりけり」(神)(42)やま山(神)(43)もの
 ↓物(神)(44)このはらこの腹(譚・類)「版」は「籠」と傍記。
 籠の腹(神)(45)つきて付て(神)(46)このめ(神)目(譚・神・
 類・版)(47)いんとのみして出んとのみして(神)いんとのみ
 して(類)(48)やせ瘦(神)(49)水をたに水おたにも(為)水を
 たにも(宮)(50)いてむいてん(譚)出む(神)(51)ほか外(神)(52)
 ↓さら(神)(53)山からやま(宮・譚・類・版)(54)こ
 の物(神)(55)いみしくひていみしくらひて(神・類・版)(56)こ
 らえ(譚・類・版)肥(神)(57)あり有(神)(58)この此(神)
 (59)やま山(神)(60)いかに(類)(61)これを見て
 いてとひてさりぬ出て飛て去ぬ(神)(62)是を見て
 (神)(64)おとこ男(宮・神)(65)うきよ(愛世神)(66)いて
 ん出む(神)(67)むん(神)(68)こそ社(神)(69)ね(常神)
 (70)こそ社(神)(71)あるかめれある(神)(72)かしら
 ↓を(譚)(73)おろしてをろして(神・類・版)(74)おこなひて
 ↓を(類)(75)たまひ玉(譚)給ひ(神)(76)きき(聞)(77)
 ↓さら(神)(80)としをくり年を送り(神)(81)侍ぬはべ
 りぬ(類・版)

我ものいみしくひて、ちからありとても、なにおこなひを
 かし侍へき。あやまりておこたりそいて侍へき。はやゆるきな
 く思ひかためてし事なれば、いかにたまはずともしたかふまし
 き也とそいらへける。さて人々もなみたをとして、いふ事もな
 くなりけりとなん。この事もききより、ふかく身にしてみてわ
 するるときなし。かのやまからのいにしへも、ことにあはれにし

のひかたく侍。されは仏は、或は三口くへともおしへ給。或は五
 口くへともおほせられたり。また舍利弗は五口六口くひて、これ
 をたすには水おもてせよといへり。されは龍樹并は身を益して、
 馬をやしなふかことくはすへからすとゞき給て、天台大師は食の
 法たる事は、もと身をたすけて道にすまざむかため也とゞきた
 まへり。これらのおしへをきかすして、おのつからやまからのゆ
 へにさとりをこしけん心、けにありかたく侍へし。またつたへ
 きとて、けにと身にしみけん人もかしこき心也。つらくおもひ
 つくれば、この一もりのくひものは、かすもなきわつらひより
 きたれるにはあらずや。春のひのなかに、山田を返すしつのお
 のひくしめなはのうちはへて、いとなみたつるわつらひおとろ
 かす、なるこの山田のはらのかりいほ、しもさゆるまてたしなみ
 て、おしねをつめるいとなみ、或はのほれはけしきに、あしをは
 みなれさほさしわひ、或はあふさかやまのはけしきに、あしをは
 やむるこまもあり。又、てつからおおひみつからになへるいとなみ、
 そのかすいそはくそや。

〔校異〕(1)しくひてしく食て(神)(2)あり有(神)(3)なに何(神)
 (4)おこなひをこなひ(類)(5)いてき出来(神)(6)思ひお
 もひ(神)(7)たまはず給はむ(神)(8)也なり(神)(9)さて
 なみたをとおして(宮・譚・類・版)涙をおとして(神)(11)いふ云
 (神)(12)なりにに成に(譚)(13)この事もこの事を(為・宮・譚・
 類・版)此事を(神)(14)きき(聞)(神)(15)身にしてみへ身にしみ
 て(為・譚・神・類・版)身にしてみへ(宮)(16)とき(神)(17)
 やま山(神)(18)しのひかたくしのはしく(宮・譚・神・類・版)

(19)或は三口くへとも食共(神)(21)お
 しへをし(譚)(22)くへ食(神)(23)また又(神)(24)これ
 ↓是(神)(25)たすには水おもてたすには水をもて(宮・類・版)
 たすには水おりて(譚)たすけには水をもて(神)(26)龍樹并龍樹
 菩薩(類)(27)やしなふかやしなふ(類)(28)とゞき給て説
 給ひ(神)とき給ひ(類・版)(29)食の法たる食のつたる(譚)(30)
 たすけ(助)(神)(31)道に道を(為)32すまざむすまざん
 (譚・神・類・版)(33)ため(神)(34)とゞきたまへり
 き玉へり(譚)説給(神)(35)これら下是等(神)(36)おしへを

なけれ。しかし、はやくかゝるうきよの中をのかれて、後せとらむとおもひて、やかてなんはしりいてにせ也。

〔校異〕(1)中比↓中ころ(宮)(2)常陸↓ひたちの(神)(3)あり↓有(宮・神)(4)侍けるなめり↓侍りければ(神)(5)まかれりけるに↓まかれりけるに(為)まかれりけるは(宮)(6)れい↓例(神)(7)けにすぎりぬへく↓けにすぎりぬ(宮)すぎりぬへく(神)(8)おほえ↓覚え(神)(9)目も↓目も(類)(10)くれ↓暮(神)(11)いあ↓家(神)(12)かへりきにけり↓かへりけり(宮)掃りにけり(譚)かへり来にけり(神)(13)こそ↓社(神)(14)いかに侍やらん↓いかに侍らん(神)(15)くひ↓食(神)(16)きたる也↓きたるなり(宮)来る也(神)(17)物ようせよ↓物ようをに(譚)物用意よ(神)物よう、いせよ(類)(18)くはむといふ↓くはむと云(神)(19)この↓此(譚・神・類)(20)けにく↓美にく(神)(21)いらあ↓いら(譚・神・類)(22)たきつげよ↓ふきつげよ(神・類)(23)いふよ云(神)(24)火を↓火お(為)(25)ふき↓吹(神)(26)えなん↓えなむ(譚)(27)ふきつげを↓ふきつげて(為)宮・譚・類(版)吹付て(神)(28)わつらひ↓頼ひ(神)(29)この↓此(神)かたいや↓かたはや(譚・神・類(版)(31)かほを↓かほ(為)か(宮)顔を(神)(32)この↓此(宮・神)(33)とほり↓とはり(譚・神・類(版)(34)やをら↓やおら(為)宮(35)さて↓扱(神)(36)かほ↓欠文(宮・譚・神・類(版)(37)さら↓更(神)(38)き↓聞(神)(39)としなかり↓しなかはかり(宮)としなかはかり(譚)年なかは(神)(40)へて↓経て(神)(41)隣↓となり(宮)(42)さとのもの↓里の者(神)(43)あり↓有(神)(44)いり↓入(神)(45)この↓此(宮・神)(46)おのつから↓をのつから(譚・神・類(版)(47)ゆきあひ↓行逢(神)(48)あさまし↓浅まし(神)(49)いましける↓いよしける(譚)(50)その↓其(神)(51)しか↓女のの↓女の(譚・類(版)しか↓女の(神)(52)もの↓物(神)(53)思ひ↓おもひ(譚・神・類(版)(54)きたる↓来る(神)(55)はけ↓はけ(神)(56)したる身↓したる事(諸本)(57)おに↓鬼に(神)(58)かなくあちぎなけれ↓かなしけれ(神)(59)しし↓しから(譚)(60)うきよ↓憂世(神)(61)のかれ↓逃れ(神)(62)後せ↓後世(宮・神・類(版)(63)いで↓出(神)

さて、かまをこしにさしたりしをもちて、てつからかみをさりすて、はへる。僧にあひてかんそりしてそらはやと思也。かならずそろうしきこゑはおはせとそいひける。さて、くひものはをりにふれて、木草のみあるを石になとてうちたゞきてくへは、またくうゑにのそむことなし。をりにふれつゝ風のふき、このはのかはりゆくをときにて、たのしみ身にあまりておほゆる也とそいひける。さて、さとにゆきてそのよしをいひければ、人々あつま

りて僧あひくしてゆきぬ。かしらそり、かひたもちなとして、あさ(26)の衣やう(27)のものけさなとよい(28)いたりければ、よ(29)とさうそきて、やかておくさまにゆきかくれぬ。さま(30)く(31)い物なとも(32)たせてゆきたりけれとも、ふつにめもみいれず、人にもなにくれといふ事なし。そのうち(33)としころありて、人に一二とあひたりけれとも、とりなどのやうにてちかくもよらねは、ものなといひかたらふにもおよはすとなん。ついに(34)はい(35)か(36)なり侍にけん、あはれにおほつかなくこそ。

〔校異〕(1)かみ↓髪(神)(2)すて↓捨て(神)(3)はへる↓侍る(宮・神)(4)かんそり↓はんそり(神・類(版)(5)思↓思ふ(神)(6)そらう↓僧(神・類(版)(7)きこゑ↓きこえ(譚・神・類(版)(8)さて↓扱(神)(9)くひもの↓食物(神)(10)をり↓おり(宮)譚・類(版)折(神)(11)ある↓有(神)(12)石になとて↓石にな(宮)石なとにて(譚・神・類(版)(13)うち↓打(神)(14)うゑにうへに(譚・神・類(版)飢に(神)(15)こと↓事(宮)神(16)をり↓折(宮)おり(譚・神・類(版)版(17)ふき↓吹(宮)神(18)このは↓この葉(為)宮(譚)木の葉(神)(19)かはりゆく↓替り行(神)(20)ときに↓とにて(神)(21)さて↓扱(神)(22)さしてゆき↓里に行(神)(23)その↓其(宮)(24)いひ↓云(神)(25)かひたもち↓戒たも(神)(26)あさ↓麻(神)(27)けさ↓袈裟(神)(28)ようい↓用意(神)(29)したりければ↓したりこれは(譚)(30)よと↓よくと(譚・神・類(版)(31)おくさま↓奥山(神)(32)ゆきせ↓持(神)(33)くい物↓くひ物(譚・類(版)(34)食物(神)(35)もたせ↓持(神)(36)ゆき↓往(神)(37)とも↓共(神)(38)いふ↓云(神)(39)その↓その(譚)後(神)(39)としころあり↓とし比有(神)(40)とあひたりけれとも↓度逢て侍れとも(神)(41)とり↓鳥(神)(42)もの↓物(神)(43)いひ↓云(神)(44)およはす↓をよはす(譚・神・類(版)(45)ついに↓いには(譚)終には(神)つるには(類(版)

十五、するかの国うつの山にいゑあせる僧事

むげにちかき事にや。するかの国うつの山に、そこともなくさすらひありく僧ありけり。つねはあやしきむしろこもかた(1)と、つちにてつくりたるなへやいとぎたなけなるおけ、ひさこなとかた(2)と、しとけなけになひてそありける。さて、ゆきとまる所にて、むしろ、こめめぐりにひきまはして、さるへきやうにいゑあしつらひて、ものしてくひなとしける。つねにはそのさとのものともにつかはれて、ひん(3)なる事はいみしく心してしけ

れは、ひんき房とそ名つ付たりける。たゝの乞食などはさすかに
おほえず、おもへる所あるよしになんみえける。ある人たつねゆ
きて、さても僧のまねかたにてかくは侍、とまめやかにいかにし
て世をいつへしともおほえ侍らす。まことゝおほしされたらむ
道、ひとつをしへ給へといひければ、れいになひたるものうち
になひて、たちうらむ、くらうらむ、はらまきうらん、よろひう
らんといひてそたちける。さて、この人さうけ給ぬしなゝの
のをうりても、せんは身をやしなふをほいとする事なれば、いつ
れのおこなひにても、よくたにせは後せをとりてんするそほいな
るへきと、のたまはするにこそ侍なれ。

〔校異〕①さすらひありくさそらひありく(神)さそひありく(類・版)②
あり有(宮・神)(3)つねは下常には(神)(4)あやしき下あやし
の(諸本)(5)むしろ下筵(神)(6)つち下土(神)(7)つくり下作
り(神)(8)なへ下鍋(譯・神・類・版)(9)やいときたなけるお
け、ひさこなとかた下欠文(神)(10)いひ下引(神)(11)い下家
あり有(宮)(12)さて下扱(神)(13)ひき下引(神)(14)い下家
(神)(15)しつらひ下しつらひ(譯・神・類・版)(16)くひ下食
(神)(17)つね下常(神)(18)ものとも者共(神)(19)ひん下食
(類)(20)心して下心(譯・神・類・版)(21)名つ付たりける
下つ付たりける(譯・類・版)②あるよしにあるに(譯・神・
類・版)(23)みえ下みへ(為・宮)見え(神)(24)ある有(神)(25)
たつねゆきて下尋ね往て(神)(26)さて下扱(神)いつへし下
くし(譯)(28)いひ下云(譯)(29)れい下例(神)(30)うちになひ下打
荷ひ(神)③さうけ給ぬしなゝの(譯・神・類・版)(32)いひ下云(譯)
(33)さて下扱(神)④さうけ給ぬしなゝの(譯・神・類・版)(35)
しなゝのものを品々のもの(神)(36)をにおほ(為)(37)うり下売(神)
(38)せん下せむ(類・版)(39)おこなひ下をこなひ(類)(40)後せ下後
世(宮・譯・神・類・版)(41)はい下ほひ(類)(42)のたまはするに
こそ下のたまはするにとそ(類)

しかはあれと、をこなひやすくて、しかもはやく世をいつる事
のきかまほしく侍そといひければ、やかてものになひておくさま
ゑいりにけり。この人、何事をこそとりわきそのをこなひとみゆ
る事なくそ侍ける。あるときは人のいゑにもあり、或時は木のし
たにもあけり。そのおはりに、このほとなやましくおほえ侍れ
はとて、人のもとをいてつねの山のこかけにゆきて、二日はか
りありて、西にむかひてそしにたりける。この人のすみ所こそあ

はれにきこゑ侍れ。つたの下道心ほそくゝらかりて、をりにふれ
つゝいかにすみわたり侍けん。昔みし人もさためてあひけんもの
を、おもひをくふしなくは、せうそこする事もあらしとあはれ也。

〔校異〕(1)をこなひ下おこなひ(宮・譯・神・類・版)(2)いひければ下い
ひければ(宮)(3)ものになひ下物荷ひ(神)(4)なへ下(類・神・
類・版)(5)この下此(神)(6)とりわき下とりわきて(譯・神・
類・版)(7)をこなひ下おこなひ(為・宮・譯・神・版)(8)い下家(神)(9)あ
り有(神)(10)或時下あるとき(譯・類・版)ある時(神)(11)し
た下(神)(12)あけり下あけれ(為)(13)おはり下をはり(譯)終
り(神)(14)この下此(神)(15)いて下出て(神)(16)つね下常(神)
(17)こかけ下木かけ(譯・神)(18)はかり下計(神)(19)あり有(神)
(20)むかひて下向て(譯)②しにたりける下終りに(神)(22)
この下此(神)(23)すみ下住(神)(24)きこゑ下きこえ(譯・神・類・
版)(25)下した(為・宮)(26)ゝ下(く)らかり下聞かり(神)(27)
をり下おり(宮・譯・類・版)折(神)③侍けん侍らむ(神)侍け
む(類・版)(29)昔下むかし(譯・類・版)(30)みし人下見し人(譯
(31)おもひ下思ひ(宮)(32)あはれ下哀(神)

十六、下野守義朝の郎等の心を、こす事

中比、四郎入道とてこゝかしこおかみありくものありけり。
下野守義朝の郎等なりけり。むらなきかうのものにてそありける。
つみのほとおもふに、きもまとひむねつふれて、にはかにおの
かみちをあらためてほたいになんおもむきにける。出家の日より
しほたち、五こくをたちて、いとわたのけをきす、夏冬おわかす
かきのあさのこそてのあはせたるを、なんきたりける。あやし
らうれうとおほしくて、そはむきのこのあらゝかなるをそたくは
へたる。むまのなかははかりにたゝ一度それをくひて、のちはま
たなにわさもなし。さのみはそはむきのこもいかてかあると人の
いひければ、なき時はせりをつみてくひ、また松ノ葉をくひてさ
てこそはあれとそいひける。さて、夏冬のかはるには、きものは
いかておなしさまにてほとゝひければ、このちかころよりは、身
のうゑにかせのわたるもいとさむくもおほえず、日のてるも事い
たくもおほえず。ゆなとあみ侍も、あつきもぬるきもいとさたか
にもおほえぬ也とそいひける。まことにそのさまたゝほねとかは

とにそみえける⁽³⁸⁾ しゝのあらはや、身にしむ霜かせもあらん。さて、ふかき山に入つては木のみをとりにあふらにしほりて、たうとき山々てらゝにたてまつるをおこなひにて侍とそいひける。人みなあはれみて、さまゝなさをあたりけれと、あさするものなどはふつにえすなん侍ける。つねにさためたる所は、宇治のそはにたはらといふ所とそ。そのよはひは八十はかりそ。ける。

〔校異〕(1)おかみ↓拝み(神)(2)ありけり↓有けり(神)(3)かうのもの↓かうの物(譚)(4)ありける↓有ける(宮・神)(5)つみ↓罪(神)(6)おもふ↓思ふ(神)(7)にはかに↓俄に(譚・神)(8)おのかみち↓をのかみち(譚・類・版)をのか道(神)(9)ほたい↓菩提(神)(10)おもむき↓をもむき(譚)(11)夏冬お↓夏冬を(宮・譚・神・類・版)(12)わかす↓分す(神)(13)一なん↓ツなん(神)(14)らうれう↓糲料(神)「ラウレウ」と傍記(譚・版)「糲料」と傍記(15)そはむきのこ↓蕎麦の粉(神)譚・版「蕎麦の粉」と傍記(16)くひて↓食て(神)(17)のちはまた↓後は又(神)(18)そはむきのこ↓そはむきの粉(神)(19)あると人の↓あると、ひとの(為)あるとひとの(宮)(20)いひ↓云(神)(21)せりをつみて↓せりおつみて(為)せりをつみ。(神)(22)また↓又(神)(23)松ノ葉↓松の葉(宮・神)松のは(譚・類・版)(24)くひて↓食て(神)(25)さてこそはあれ↓扱こそは哀(神)(26)さて↓扱(神)(27)きもの↓着物(神)(28)と↓ひければ↓と問ければ(神)ととひければ(類・版)(29)この↓此(神)(30)身のうあ↓身のうへ(譚・神・類・版)(31)かせのわたるもいとさむく↓風の渡るもい。さむく(神)(32)事いたくも↓いといたくも(神・類・版)(33)ゆなと湯なと(神)(34)あつきも↓暑きも(譚)(35)さたかにもおほえぬ也↓さたかにおほえすなりぬ(神)(36)いひ云(神)(37)かは↓皮(神)(38)みえける↓見えける(宮・譚・神・類・版)(39)霧かせ↓霧風(神)(40)つは木↓つばき(譚)御は木(類)(41)あふら↓油(神)(42)たうととき山々↓とうととき山々(神)(43)「タ」と傍記)たうとときやまゝ(譚・類・版)(44)あたりけれと↓あたへけれと(神)(45)あさする↓えさする(譚・神・類・版)(47)つねに↓常に(神)(48)宇治の↓うち(譚)(49)いふ↓云(神)(50)そのよはひは↓其給ひ(神)(51)八十はかりそ。ける↓八十はかりにそ侍ける(譚・類・版)八十はかりそ侍ける(為)宮八十計にそ侍け(神)

十七、稻荷山のみもとに日を、かみて涙おなかつ入道事
ちかころ⁽¹⁾ いなりの返りさかに、きしのうへ⁽²⁾にあやし⁽³⁾のこもひ
とつうちしきて、⁽⁴⁾としいとをひたる入道たゝひとりめて、西にむ

かひてゆふ日をかみて、⁽⁶⁾さめゝとなくありけり。いかにと人のとひければ、我はしなのゝ国のたみにて侍しか、世中いとしたうあちきなう侍しかは、かくまかりなり侍。みやこはなにわさにつけてもよく侍とききて、⁽¹⁴⁾とふゝまかりのほりて侍。しれる事もなければ、たゝあみた仏をたのみたてまつりて、⁽¹⁸⁾夜ひるとくしてむかへたまへと、⁽²¹⁾なきをめきあつらへたてまつるよほかの事なし。夜はこのしもなる人のあたりに侍か、⁽²⁴⁾一夜うちねねはさらにもあはず。あはれ、⁽²⁸⁾よのはやもあけて日のいて給へかしと、⁽³²⁾夜もすからまちたてまつる。さて、かねもち夜もほのめくほとになりぬれば、このきしにむ侍て、⁽³⁵⁾東にむかひて、はや日のいてたまへかしと思おりて、⁽³⁷⁾日もいてゝやうゝ南にめぐり給へは、それにしたかひてまた南にむかひて、とくして我をくして西へおはしませとねかひ侍て、⁽⁴⁰⁾かやう時に西の山のはにかゝらせ給ときは、⁽⁴³⁾こゑもをしますすなかれ侍て、⁽⁴⁶⁾我をすてゝはいづくへおはしますそとすゝろにかなしくて、⁽⁴⁹⁾みとりこにて侍しとき、⁽⁵¹⁾母のものにまかりてしか、⁽⁵⁴⁾心ほそくしたはしく侍しよりは、⁽⁵⁷⁾猶くらふへくもなくなしく侍て、⁽⁶⁰⁾あみた仏いかにしたまひつるそと、⁽⁶³⁾なくよりほかの事なし。

〔校異〕(1)ちかころ↓近比(神)(2)返りさか↓返り坂(譚)かへり坂(神)(3)きしのうへ↓岸の上(神)(4)うちしきて↓打敷て(神)(5)としいとをひたる↓としいとおひたる(為)宮・譚・類・版)年老たる(神)(6)ゆふ日↓夕日(神)(7)をかみて↓おかみて(宮・譚・神・類・版)(8)ありけり↓有けり(神)(9)とひ↓問(神)(10)我はしなのゝ国↓しのゝ国(譚)(11)たみ↓民(神)(12)いふたうあちきなう↓いとうあちきなう(神)(13)みやこ↓都(神)(14)つてうあちきなう(神)(15)きよとて聞て(神)(16)まかりのほりて侍し(神・類・版)(17)しる事(類・版)(18)あみた仏を↓阿弥陀仏(神)(19)たのみたてまつりて侍したのみ奉る也(神)(20)ひる↓暮る(神)(21)むかへたまへ↓むかへ迎へ給へ(神)(22)たてまつる↓奉る(神)(23)ほかの事↓外の事(神)ほかのこと(類・版)(24)このしもなる人のあたりに↓此下なるあたりに(神)(25)侍か↓侍る(神・類・版)(26)うちねねれ↓打ぬれ(神)(27)さら↓更に(神)(28)あはれ↓哀(神)(29)よのはやも↓夜のはやも(為)宮よのはやも(譚)よのはやく(神・類・版)(30)あけて↓明て(神)(31)日のいて給へ↓日のいてたまへ(為)宮)日の出給(神)(32)夜↓よ(神)(33)まちたてまつ

る。待奉る(神)(34)なりぬれば↓成ぬれば(譚・神)(35)のきし
 ↓此岸(神)(36)日のいて↓日の出(神)(37)思おりて↓思をりて(譚
 (38)日もいて↓日も出て(神)(39)したかひてまた↓従ひて又(神)
 (40)かやう↓か様(神)(41)山のは↓山の端(神)(42)給とき↓給時
 (神)(43)こゝろ↓声(神)(44)をしましませおします(譚・神・版)
 (45)我を↓我(類)(46)すて↓は↓捨ては(神)(47)いづく↓何国へ
 (神)(48)みとりこ↓みとり子(神)(49)侍しとき↓侍し時(為・宮・
 神)(50)まかりてしか↓りは猶いでしか(譚・まかり出しか(神)
 (51)猶↓猶々(神)(52)あみた仏↓阿みた仏(宮)阿弥陀仏(神)(53)
 したまひつるそと↓したまひつるそと(宮)し給ひつるそと(神)
 いまも人のみ給に、すこししのひ侍らんとつかうまつりつるか、
 さらになはて、かくみとかめさせ給はかりに侍けるにこそそそ
 いひける。さて、このとふ人いとあはれに思て、ときくものど
 のえてつかはしなとしけり。あるときたつねさすれば、あとかた
 もなしとなんかたり侍し。いといたうあはれにおほえ給。いとこ
 まかにこそなけれども、をのつから日想観にあたりて侍けるにこ
 そ。あめなどのほけしくふりけん、いかゝわひしく侍けん。思
 はかりある人こそさまゝになくさむろも侍れ、みしかき心に
 は、さらにはるゝかたなくおもひみたれてこそ侍けぬ。また、か
 の人の行多いかになりけん、ことにおほつかなく侍。たれゆへ
 たてそめ給ちかひなればかは、たのむ人と御らんしすくすへぎ。
 なればさためてかのみくにゝこそはむまれ侍にけぬ。いとをしく
 侍ける心かな。

〔校異〕(1)つかうまつりつるか↓つかうまつりつる(類)(2)さらになはてに
 (神)③給はかりに↓給まてに(宮・神・類・版)給さてに(譚)(4)
 侍けるにこそそそ侍けるにこそと(神)(5)いひける↓云ける(神)
 (6)このとふ人↓此問人(神)(7)あはれ↓哀(神)(8)思て↓おも
 ひて(神・類・版)(9)とき↓時々(神)(10)もの↓物など(神)
 (11)とゝのえて↓とゝのへて(譚・類・版)調て(神)(12)かはしな
 としけり↓つかはしなとしける(神)(13)あるとき↓ある時(或時
 譚)(14)たつね↓尋ね(神)(15)あとかたも↓跡かたも(譚・神)
 (16)いたう↓いとう(類)(17)あはれ↓哀(神)(18)おほえ給↓おほ
 え侍(諸本)(19)こまかに↓細かに(神)(20)とも↓共(神)(21)こそ
 ↓社(神)(22)あめ↓雨(神)(23)わひしく↓佗しく(神)(24)思は
 かり↓思ひはかり(神・類・版)(25)なくさむろも↓なくさむろも
 も(為・宮・神・類・版)なくさむろも(譚)(26)さらになはてに(神)

(27)おもひみたれて↓思ひ乱れて(譚・神)思ひみたれて(類・版)
 (28)かの人↓彼人(神)④行多↓つゝ(宮)(30)なり↓成に(神)
 (31)ことに↓殊に(神)(32)たれゆへ↓たれゆゑ(為)誰ゆへ(神)
 (33)給ちかひ↓給誓(神)(34)たのむ人と↓たのむ人を(神・類・版)
 (35)御らん↓御覧(為・宮・神)(36)かのみくに↓彼御国(神)(37)
 むまれ↓生れ(神)(38)侍にけぬ↓侍りけぬ(神)(39)いとをしく↓い
 とおしく(譚・類)⑤侍ける↓侍。(為)侍人の(神)(41)心かな↓心哉
 (譚)こころかな(神)

十八、あやしの入道空也上人南無阿弥陀仏みかほの入道南無阿
 みた仏と、なふる事

中比、東の京にあやしのまつしき入道ありけり。するわざも侍
 らす、たつねには空也上人南無阿弥陀仏。参河入道南無阿弥陀
 仏。書写聖南無阿みた仏。恵心僧都南無阿弥陀仏といふ念仏をそ
 申ける。後にはこういりて、いみしくたうとくそきこえける。を
 ひのねふりはやうさめて、夜ふかく夢をのこしたる人々、ねさめ
 のとこにあはれかけすといふ事なし。あるときはかきくらしうせ
 て、日かすになるまでみえぬ事もあり。またなにしてやらん、
 返きてまかひありくときもあり。かすならぬいゑのありけるをし
 るへにて、ふるわたりをそむねとのゐる所にはしたりける。めもこ
 もうせにければ、さら也、なにゝかは心のとゝまるふしも侍らん。
 いみしく思ひすましてなんみえける。かゝるほとに、この人心な
 やましきとて、さしいてもせず、ひとりゐたりけり。かくて四五
 日してやおらはひいて、人々にたいめして、まかりかくれなん
 事のちかく侍れば、みもきこゑ、みへもきこゑんとてなとあはれ
 にいひつゝ、その辺の人々にふれまはりて、かへりてやかてほと
 なく身まかれりけり。わたりの人々いとあはれにて、なみたにむ
 せひけるとなん。あはれにしのはしく侍り。

〔校異〕(1)中比↓中ころ(宮)(2)東の京↓東ノ京(為・宮)(3)まつしき
 参河(神)(4)ありけり↓有けり(宮・神)(5)つねには↓常に(神)
 (6)南無阿弥陀仏↓なむ阿みた仏(譚)「无」は「無」(宮・神・類・
 版)(7)参河↓参河の(神)(8)南無阿弥陀仏↓南無阿みた仏(為・
 神)南無阿弥陀仏(宮)なむ阿みた仏(譚)(9)書写聖↓書写聖人(譚)

神・類・版(10)南無↓南无(宮)(11)阿みた仏↓阿弥陀仏(宮・神)あみた仏(類)(12)南無↓南无(為)なむ(譯)(13)阿弥陀仏↓あみた仏(宮)阿みた仏(譯)(14)といふ念仏と念仏(譯)(15)云念仏(神)こころいりてこころ(譯)功のいりて(神)(16)云念仏(神)こゑ(為)聞え(神)(17)をひの↓おひ(譯)おひの(類・版)(18)ねふり↓寝ふり(神)(19)夢を↓夢お(為)20のこし↓残し(神)(21)とこ↓床(神)(22)いふ↓云(神)(23)あるときはは↓有時は(神)24日かすになるまで↓日数になるまで(神)日かすふるまで(類)(25)あり↓有(神)(26)またなにと↓又何と(神)(27)返きて↓歸り来て(神)かへりきて(類・版)(28)とき時(為)宮・神(29)かすならぬいゝ↓数ならぬ家(神)(30)ありける↓有ける(宮・神)(31)ふるわたりを↓ふるわたりお(為)(32)こも↓子も(宮・神)(33)うせに↓失に(神)(34)さら也↓さや(類)(35)なに↓何に(神)(36)思ひ↓おもひ(神)(37)この↓此(神)(38)ひとり↓独り(神)(39)3936)やおら↓やをら(譯)(40)はひいて↓はひ出て(神)(41)たいめして↓対面して(神)(42)みもきこゑ↓みもきこゑ(譯)神・類・版(43)みへもきこゑ↓みえもきこゑむ(譯)神・類・版(44)辺の↓辺(神)(45)わたりの人々↓わたりの人(神)(46)あはれにて↓哀に(神)(47)しのはしく侍り↓しのはしく社(神)

十九、あやしの僧の宮つかへのひまに不淨観をこらす事

むかし、ひえの山¹になにかし²とかやい³ひける人のもとにつかはれける中間僧ありけり。しうのためにひと事もたかうふるまひなし。いみしくま心にて、いとをしきものにそおもはれたりける。かゝるほとにとしころへて後、ゆふくれにはかならずうせて、つとめてとくいてくる事をしけり。しうもいみしくにき事に思ひて、さかもとにゆきくたるとこそあめれなと思ひけり。かへりたるときもうちしめりて、人にはかゝしくをもてなとあはする事もなし。つねにはなみたくみてのみみまければ、ゆきかふところの事をあきたらすおもひて、かゝるにこそとそゆるきなく、しうも人も思ひきためける。さて、あるとき人をつけてみせければ、にしきかもとをくたりて、れんたい野にそゆきにける。このつかひあやしく、なにわさそとみければ、あちこちわけすきていひしらすい³¹ま³²しくみたれたる死人のそはにゐて、めをとちめをひらきして、たひ³⁴かやうにしつ³⁵、こゑもおし³³ますそなきける。夜もすからかやうにして、かねもうつほとになりぬれば、なみた

おし³⁷のこひてなん返ける。このつかひおもはすにかなしくおほえて、おもふらん心のほとはしらねとも、なみたをなかつ事³⁸かきりなし。さて返きぬ。いかにとたつぬれば、その事に侍。この人⁴⁶あやしく露ふかくしほれけるは、ことほりにそ侍へき。かうく⁴⁷の事の侍て、はやうせけるなるへし。いみしきひしりのおこなひを、みたりにあやしのさまに思ひけかしけるつみのほとものかれかた⁵⁰、かなしくてといひけり。あるしおとろきて、其後はいみしきうやまひをいたして、さらにつねの人⁵²にふるまひくらへす。

〔校異〕(1)ひえの山↓ひえの山(為)宮(と)なにかし↓何かし(神)(3)いひ↓云(神)(4)ありけり(譯)神・類・版(5)しうのため↓主の為(神)(6)ひと事↓ひとこと(譯)(7)たかうたかふ(神・類・版)(8)いとをしきものにそいとおしきものにそ(譯)類)いとおしき物にそ(神)9おもはれたりける↓おもはれけり(神)(10)としころ年比(神)(11)ゆふくれ↓夕くれ(譯)夕暮(神)(12)つとめてとくいてくる↓勤めて出来る(神)(13)しうも↓主(神)(14)さかもと↓坂本(神)(15)ゆきくたるとこそ↓ゆきくたるとこそ(譯)神・類・版)神)の「こそ」は「社」と記す(16)思ひ↓おもひ(神)(17)かへり↓歸り(神)(18)ときも↓時も(神)(19)はかしくを↓はかしくを(譯)神・類・版)神)つねにはなみた↓常には涙(神)(21)みまければ↓見まければ(宮・神)みえければ(譯)神・類・版)22ところ↓所(神)(23)しう↓主(神)24さてあるとき↓扱有時(神)(25)つけて↓付て(神)(26)れんたい野↓蓮台野(神)(27)ゆきに↓行に(神)(28)この↓此(神)(29)なにわさ↓何わさ(神)(30)わけすきて↓分過て(譯)わけ過て(神)31いひしらす↓いしらす(類)32めをひらきして↓めをひらき折て(譯)神・類・版)33かゝもつ↓鐘も打(神)(34)なり↓成(神)35かへりかたお↓なみたを(譯)神・類・版)36返ける↓歸りける(神)かへりきて(類・版)37おほえて(神)(40)おもふ↓思ふ(宮)41しらねとも↓しらねと(譯)42なみた↓涙(神)43なかつ事↓なかつこと(譯)神・類・版)44さて返きぬ↓扱かへりきぬ(神)かへりきぬ(類・版)45たつぬれば↓尋ぬれば(神)46この人↓此人(神)47かうく⁴⁸の事↓かうく⁴⁹の事(神)48思ひけかしける↓おもひけかしける(譯)神・類・版)おもひける(類)49つみ↓罪(神)50のかれかた↓のかれかた(譯)神・類・版)逃れたたくて(神)51いひけり↓云けり(神)52さらにつねの↓更に常の(神)

さてあるとき、あしたのかゆをもてきたりけるに、あたりに人もなく侍ければ、まことにや、おのれは不淨観をこらす事あんなるといひければ、さる事いかか侍らん。さやうの事はちゑある人

こそし侍なれ。(13)この身のありさまはみなしろしめしたるらむといひけり。いかにかゝる事はいふそ、みなしりたるものを。その心は心ばかりはどうとくありかたに思に、かく心おきてあるこそといひければ、その事に侍。なにとふかくはしり侍らねとも、おろ／＼はつかうまつり侍といひければ、さためてしるしあるらんな。そのかゆ観してみせたまへといひければ、おしきをうちおほひて、とはかり観念してあけて侍ければ、みなしろきむしにそなりてける。これをみて、このあるしきめ／＼となきて、かならず我を道ひき給へよ、とねんころにそあつらへける。いとありかた侍ける事にこそ。天台大師の次第禪門といふ文に、おろかならんもの、つかのほとりにゆきて、みたれくさりたらむ死人をみれば、観念成就しやすしと侍めれば、この人もさやうに侍けるにこそ。また、止観のなかに観をときて侍には、山河も皆不浄也。くひもの、きもの、又、しやう也。飯はしろき虫のことし。衣はくさきもの、かはのことしなと侍めれば、かの人の観念実にいみしくて、おのつから聖教ノ文にあひかなひて侍けるにこそ。されは天竺ノ仏教比丘は、うつはものはとくろのことし。飯は虫のことし。衣はくちなはのかはのことしとくさき、もろこしの道宣律師は、きはこれ人の骨也。土はこれ人の肉也、とは説たまふぞかし。

〔校異〕(1)さてあるとき↓扱有時(神)あるとき(類)(2)あした↓朝(神)(3)きたり↓来り(神)(4)あたり↓あたかに(宮)(5)まこと↓誠(譚)(6)おのれ↓譚「では」を也(7)と傍記、このれ(類)(7)不浄観↓ふ浄観(譚)(8)いひ↓云(神)(9)侍らんに侍らむ(神)(10)さやうの↓さやう(宮)(11)ちよ智恵(神)(12)人こそ↓人(神)(13)し侍なれ侍なれ(類)(14)この身↓此身(神)(15)ありさま↓有様(神)(16)らむといひ↓らんと云(神)(17)そのうち↓其後(神)そのうち(類)(18)とうとく↓たうとく(為・宮)「譚」は「と」に「た也」と傍記(19)ありかた↓思に↓有難くおもふに(神)(20)心おきてあるこそといひければその事に侍らんに↓欠文(神)(21)心おきて心きて(譚・類・版)(22)さためて↓定て(譚)(23)かゆ↓粥(神)(24)みせたまへ↓見せたまへ(宮)みせ玉へ(譚)みせ給へ(神)(25)いひ↓云(神)(26)おしきを↓おしき(類)(27)侍ければ↓侍。れば(為)侍りければ(神)(28)みなしろきむし↓。しろき虫(神)(29)これをみて↓是を見て(神)(30)このあるし↓あるし(神)(31)なき

て↓泣て(神)(32)道ひき給へよ↓みちひき給へよ(譚)みちひき給へと(類・版)道ひき給へと(神)(33)ありかた↓有かた(神)(34)大師の↓大師ノ(為)(35)いふ文↓云文(神)(36)おろか↓をろか(譚・神・類・版)(37)つかのほとりにゆきて↓塚の辺りに住て(神)(38)たらむ↓たらん(諸本)(39)死人をみれば↓死人を(神)(40)この↓此(神)(41)また↓又(神)(42)止観↓止観(為)上観(神)(43)なかに↓中に(神)(44)ときて侍には↓説て侍るには(神)(45)不浄↓不浄(譚)(46)くひもの↓食物(神)(47)きもの↓着物(神)(48)又、しやう也↓又ふしやう也(為・譚・類・版)又ふしやうなり(宮)又ふ浄也(神)(49)くさきもの↓くさきもの(神)(50)かは↓皮(神)(51)侍めれば↓侍るめれば(神)(52)かの↓彼(神)(53)実に↓まことに(宮)神・類・版(54)おのつから↓のつから(譚・神・類・版)(55)聖教ノ↓聖教の(宮)譚・神・類・版(56)かなひて↓叶ひて(神)(57)天竺ノ↓天竺の(宮)譚・神・類・版(58)うつはものは↓器は(神)うつはものは(為)(59)ことしとくさきことしと説(神)ことしと(類・版)(60)きはこれ人↓木は是人(神)器はこれ人(類)木はこれ人(版)(61)也↓なり(宮)(62)土↓飯(類)(63)これ↓是(神)(64)肉也↓肉なり(宮)譚・神・類・版(65)とは説たまふ↓と説給ふ(神)

かやうのいみしき人々のときおき給事をもしらぬ。あやしの僧のおのつからそのおしへにあたりて侍けん、たのもしく侍かな。そのくはんを成就するまでこそなくとも、かやうにしりく侍めなは、さすかいは木ならねは、五欲の思やう／＼うすくなりて、むかしにもあらぬ心になり侍なんするぞかし。おりふしのうづればかはるころもてに、すゝろに心をくたき、あさゆふのしはおりにくふるけふりゆへに、いたつらに身をなやまし侍らんは、けにくちなはのかはをたつね、しろきむしをもとめて、にしにはしり東にかへりみるにかはらさるへし。かやうにいふを、世中の人はたえかたのことや、いける身のならひ。この二こととはたかきもあやしきもみなあることぞかし。さなくはいかてか、時の間もなからへておこなひをもすへきなどあらぬさまにいふ事も有へし。これはいみしきひか事也。されは仏もふつにもちある事なかれとはいましめたまはず。たゝかやうに思ひやりて、いみしき思ひをなす事なかれとそをしへ給める。このことはりをしらぬになりて、あさやかなるころも、こまやかなるあちはひ、食欲の心もふかくをこり、

をろそかなるあちはひ、⁽⁴⁵⁾をちふれたるころもには、⁽⁴⁶⁾しんいの思ひ⁽⁴⁷⁾あさからず。よしあしはかはれども、りん糸のたねとなる事はこ⁽⁵⁰⁾れおなしかるへし。かならずよしあしにつけて、⁽⁵¹⁾慈悲心おさきと⁽⁵²⁾して、あはれいかなるものゝいとなみたしなみて、⁽⁵³⁾わひしと思つ⁽⁵⁴⁾らんとあはれをかくへし。うきよにありへて人にましらひけるな⁽⁵⁵⁾らひのくちおしさは、さしあたりて人のめたゝしく思ひたるとき⁽⁶⁰⁾にはさは思へとも、⁽⁶¹⁾しのひかたきことも侍へきにや。それにつ⁽⁶²⁾けても、あはれむやくに侍へき事かな。ゆめのうちのかりそめ事ゆ⁽⁶³⁾へに、なかきよにねふらん事、⁽⁶⁴⁾からくそ侍へきなと思へきにや。⁽⁶⁵⁾かやうにたに思ひてすこしかなしむ心も侍かし。⁽⁶⁶⁾

〔校異〕(1)ときおき給事↓ときをき給事(宮・譚)説置給事(神)ときを
 給事(類・版)(2)おのつから↓をのつから(宮・譚・神・類・
 版)(3)そのおしへ↓そのをしへ(譚・類・版)其をしへ(神)(4)
 侍けん↓侍りけん(神)(5)たのもしく↓たのもしくも(為・宮)(6)
 くはんを↓わんお(為)願(神)願を(類・版)(7)しり↓知(神)
 (8)いは木ならねは五欲の思やう↓うすくなりて↓欠文(譚)(9)
 いは木↓いはき(為・宮)岩木(神)(10)思↓おもひ(神)(11)心に
 なり↓心(神)(12)おりふしの折ふしも(神)(13)うつれ↓移
 れ(神)(14)てに↓手に(神)(15)あさゆふのしはおり↓あさ夕の柴
 折(神)(16)ゆへに↓ゆゑに(為・宮)(17)身を↓身お(為)(18)か
 はをたつね↓皮を尋ね(神)(19)むし↓虫(神)(20)にしはしり↓西
 に走り(神)(21)かやうにいふ↓か様に云(神)(22)たえかた↓たゑ
 かた(為)たへかた(譚・類・版)(23)こと↓事(為・宮)(24)なら
 ひ↓習(譚)(25)この二こと↓此二こと(譚・類・版)此ふたつ(神)
 (神)(26)たかき↓高き(神)(27)あやしきも↓いやしきも(譚)(28)
 あること↓ある事(為・宮・神)(29)時の間↓時のま(為・宮・類・
 版)(30)なからへて↓なからあて(為)(31)いふ↓云(神)(32)有へ
 し↓あるへし(為・宮)(33)これは↓是は(神)(34)ひか事↓ひかこ
 と(譚・類・版)(35)たまはず↓給はず(神)(36)思ひ↓おもひ(神)
 (37)思ひをなす↓思ひおなす(為)おもひをなす(譚・類・版)(38)
 なかれとそ↓なかれと(類)(39)この↓此(神)(40)しらぬに⁽⁴¹⁾なりてあ
 さやかなるころも↓しらぬに⁽⁴²⁾なかれとそをしへ⁽⁴³⁾給める(譚)しらぬも
 の(神・類・版)なりてあさやかなるころも(譚・神・類・版は欠文)
⁽⁴⁴⁾こまやかなるあちはひ↓このことほりやかなるあちはひ(譚)こま
 やかなるあちはひには(神・類・版)(42)貪欲の↓貪欲ノ(為)(43)
 ふかく↓深く(譚)(44)をこり↓おこり(類)(45)あちはひ↓味(神)
 (46)ころも↓衣(神)(47)しんいの思ひ↓願患のおもひも(神)(48)
 りん糸のたね↓輪廻の種(神)(49)なる事↓成事(神)(50)おなし↓を
 なし(為・宮)同し(神)(51)つけて↓付て(神)(52)慈悲心お↓慈
 悲心を(宮・譚・神・類・版)(53)あはれ↓哀(神)(54)わひし↓佗
 し(神)(55)思つらん↓おもひつらん(神)思へらん(類)(56)あはれ

↓哀(譚・神)(57)うきよ↓うき世(譚)憂世(神)(58)ありへて
 ↓ありへき(類)(59)くち↓口(神)(60)思ひたるとき↓おもひたる
 時(神)(61)思へとも↓おもへとも(為・宮・譚・類・版)おもへ共
 (神)(62)しのひ↓忍ひ(神)(63)かたきことも↓かたき事も(為・
 宮・譚・神)(64)つけて↓付て(神)(65)侍へき↓侍るへき(神)(66)
 ゆめのうち↓ゆめ(の)うち(譚)夢の中(神)(67)かやう↓か様(神)
 (68)心も↓こころも(宮・神)

(昭和四十九年九月十七日受理)